

※ 当申請書は個人情報を含んでいますので、受付は郵送に限らせていただきます。
 万一、EメールやFAXにて送付いただいたことにより、情報が外部へ漏洩した場合、当金庫は一切その責を負いませんので、
 あらかじめご了承ください。

統合10周年記念プログラム
 ～教育ローンキャンペーン～

「近畿ろうきんNPOアワード」 申請書

2009年 2月 26日

不採択

◇ プロジェクトの名称

親子でつくろうプレイパーク

【どちらかを選択】 子どもの成長を応援する事業、 子育て環境を整える事業

◇ プロジェクトの概要

※200文字以内	自己責任で自由に遊ぶ手作りの冒険遊び場である「プレイパーク」を子どもが主体的に作り上げていくのを大人が見守り、手助け、子どもの関心・必要に応じて指導的役割を果たす人への働きかけなどをする。そういう親子、ファミリーのプレイパークづくりをスタッフ、学生が必要な手助けをする。このようなプレイパークが全国各地域に広がるように、具体的に促進役となれる人材を遊びの主役とかかわってもらうことで養成する。
----------	--

※上記の情報は、本助成プログラムの広報（ホームページ等）に使用する目的において公開させていただく場合があります。

◇ 連絡先

団体の事務所 所在地	〒630-8301 奈良市高畑町1202-7	
	TEL 0742-94-6800	FAX 0742-84-6800
	Eメール npohotnet@yahoo.co.jp	
団体	団体名 特定非営利活動法人 ほっとねっと	担当者 寺前 美加
連絡可能な曜日 時間帯	TEL ※時間、曜日は問わないですが、携帯電話にご連絡いただくと助かります。 0742-94-6800	
	FAX 0742-94-6800	携帯電話 090-8233-9172
	月 火 水 木 金 土 日	Eメール npohotnet@yahoo.co.jp

【記入上の注意】

1. 申請書は、すべて片面・A4サイズとしてください。提出部数は2部です。
2. 必要な情報はできるだけ様式内にご記入ください。各記入欄の大きさは変更しても構いません。
3. 提出された申請書、添付資料は返却できませんので、あらかじめご了承ください。
 * 提出いただいた個人情報は、本事業においてのみ（事業運営・審査・連絡など）使用いたします。

◇ 提出書類 添付の書類に○をつけてください。書類がない場合は不要です。

<input type="checkbox"/>	組織の「規約」か「定款」
<input type="checkbox"/>	直近の事業計画書（予算書含む）、事業報告書（決算書含む）
<input type="checkbox"/>	団体の概要がわかるパンフレットやニュースレター
<input type="checkbox"/>	役員名簿

【事務局欄】	受付日	/	審査結果	/	書面通知	/
--------	-----	---	------	---	------	---

1. 団体の概要

団体名	特定非営利活動法人 ほっとねっと	
	URL	http://www.bl.nara.jp/hotnet/top.html
代表者氏名	伊藤 満	
設立年月	2002 年 3 月	
主な活動地域	奈良県	
団体のミッション	<p>人権の擁護・平和の維持などに関する啓発や社会教育等の事業を行うことですべての人の人権のさまたげられることのない「まちづくり」推進を通して差別の撤廃、男女共同参画の形成、および子どもの健全育成に寄与する。</p>	
団体設立の経緯	<p>理事長はじめ、長年メンバーがかかわってきた部落解放運動や他の人権問題解決への啓発活動、取り組みの形骸化をなんとかしたい。人権教育はそれ単独で行ってもダメで、福祉教育、環境教育、平和教育などさまざまな異分野との深く有機的なつながりのなかで行われてはじめて実のあるものになる。との思いでより多くのつながりの中で実践的な活動ができるようにNPOを立ち上げた。そして、まずは差別、格差をなくす具体的な方法として一人一人の「生きる力」をつける活動のひとつとして元商業林であった山林を借りて冒険遊び場「ひーとびーとの森」を開設した。</p>	
主な活動内容	<p>社会にある格差（差別）をなくすための具体的な方法として、それぞれが自尊感情を持ち自立した人間となるための相互支援活動として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 冒険遊び場「ひーとびーとの森」の管理・運営 2. 人権に関する研修会・ワークショップの開催。教材・プログラム研究 3. 情報弱者のためのIT支援（主にパソコン教室） 4. 人権博物館（水平社博物館）の館内ガイド、周辺フィールドワーク 5. 人権相談（電話・メール・面談） 6. ニート・引きこもり・軽度発達障害者・シングルマザーなど困難を抱えた人の就業など社会参加支援 7. 食の安全・地域コミュニティ再生のための農作物づくり（菜の花プロジェクト） 8. 異文化理解のための外国人旅行者との日本文化体験 	
団体の規模 (最新の予算・決算額、会員数など)	(2008) 年度	
	会費	275千円
	寄付金	1200千円
	事業費	2500千円
	収入合計	5105千円
	会員数	65人
常勤役員数	1人	

2. プロジェクトの詳細

プロジェクトの動機について	<p>地域コミュニティが崩壊し、世帯間交流も薄れ、地域の教育力がなくなったことや、子どもにとって遊びや個々人の関心に沿った学びの空間・時間・仲間がなくなったことにより、不登校・いじめなどが頻発している。またその延長線上にニートや引きこもりなど困難を抱えた若者を増産している現状があるように思われる。そのような中では広がる一方である格差や差別をなくすためにも、子どもが関心の向くままに遊び、学べる場所を保障することで子どもだけでなく、周りの大人たちにとっても少しでも生きやすく活力を養うことができるのではないか、と思い、もともと開設している冒険遊び場を遊びの主体者でより楽しく作り直してもらいたいと思い企画した。</p>
目的	<p>自己責任で自由に遊ぶ、という新しい形の遊び・学び創造の場である「プレイパーク」を冒険遊び場「ひーとびーとの森」を主体的に参加者によってどんどん創造していったモデル化し、各地に持ち帰ってもらってそれぞれの場所で新しくプレイパークを地域の人たちと作っていき、子どもたちにとっての主体的な遊び・学びの空間を増やしていき、子どもにとっても大人にとっても生き生きとした「まち」をつくる一助とすること</p>
内容（具体的に）	<p>年に数回「自己責任で自由に遊ぶ」プレイパークの実施を予定する。 その予定日に合わせて参加親子・グループなどを募集する。 応募者とのような場作り、プログラムを開催したいかなどを事前に話し合い、必要な講師、スタッフ、道具などを準備する。 当日は計画した場作り、プログラムをあくまでも参加者が主体となって開催する。 開催後、ふりかえりを行い、今後の遊び、学びに活かすためにどのような活動、実践を始めたり続けたりしたいかを参加者、スタッフ、講師などと共有しあい、広く一般にもその思いを知ってもらうことでプレイパークの考え方を広める。</p>
効果・波及性 (数値目標を含む)	<p>それぞれの関心に応じて主体的に遊び場・学び場をつくる人を一人でも増やすことで、それぞれの地域でいろいろな主体がつながりあうきっかけが増えることにもなり、それが地域コミュニティの再生につながる。 「自己責任で自由に生きる」という考え方が広まることで、自尊感情を持った本当の意味での自立をそれぞれが獲得することで少しでも差別のない世の中をつくる一助となる。 (差別とは、自立できない個人により個人攻撃である、との思いによる)</p>
市民の参画 (方法・数など)	<p>学生ボランティアの募集、参加者を児童館、子育て支援グループなどを通じて募集</p>
資源の活用(外部協力者など含む)	<p>ネイチャーゲームやキャンプの指導などができる団体や困難を抱えた人を支援する団体との連携(講師としてかかわってもらう、中身作りのアドバイスをしてもらう、など)</p>
プロジェクトのアップグレードポイント (実現性含む)	<p>最近では子育て世代に、自然の中で子どもを遊ばせたい、自由な雰囲気の中で学ばせたいという思いや健康への関心が高まりつつある。そのような人たちに具体的に場とノウハウを提供することで、世の中の子育て環境を子育て中の人主導で激変させる可能性は大いにあると思っております。冒険遊び場が全国にたくさんできるきっかけにしたいと思います。</p>

今後の継続、発展性
(運営体制含む)

なんといっても促進役・指導的役割を果たす人の質と量の向上が継続・発展の鍵を握ると思うので、まずは人づくりに力を入れたい。それには、学生や、子育て当事者だけでなく、多様な人に少しでもかかわってもらうような日常的な声かけを続けることが一番大事だと思っています。その次に行政や学校・企業などに働きかけを続け、資金面での充実によって人や場の継続・発展を支える体制づくりを時間をかけてじっくり行っていきたい。

3. 実施スケジュール (予定)

実施細目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	参加者募集、話し合い	プレイパーク開催	参加者募集、話し合い	プレイパーク開催			参加者募集、話し合い	プレイパーク開催			参加者募集、話し合い	プレイパーク開催

4. プロジェクトの収支計画

<収入>

種類	摘要	項目の内訳・算出根拠	金額
助成金 (上限50万円)	助成金		15万円
自己資金			3万円
参加費など			2万円
収入総額			20万円

<支出>

科目	摘要	項目の内訳・算出根拠	金額
講師謝礼		1万円×2人×4回	8万円
スタッフ交通費		2千円×5人×4回	4万円
材料費	食材費	1万円×4回	4万円
	工作材料	5千円×4回	2万円
会議費		5千円×4回	2万円
支出総額			20万円

申請書の提出締め切り 2009年2月27日 (金)